

音読

漢詩のリズミカルな  
言葉のひびきを味わいましょう

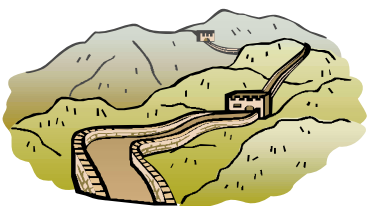
年  
名前

漢文2

『春望（しゅんぼう）』も、漢詩（かんし）の一つです。音読5で練習した『春曉』と同じように、各行が5つの漢字で成り立っています。訳を読んで、情景も思い浮かべてみましょう。

春望  
しゅんぼう

杜甫  
とほ



国破山河在  
城春草木深  
感時花溅泪  
恨别鸟惊心  
烽火连三月  
家书抵万金  
白头搔更短  
浑欲不胜簪

国破れて 山河在り  
城春にして 草木深し  
時に感じては 花にも涙を溅ぎ  
別れを恨んでは鳥にも心を驚かす  
烽火 三月に連なり  
家書 万金に抵たる  
白頭搔けば更に短く  
渾べて簪に勝えざらんと欲す

〔解説〕

国がみだれ、ほろびてしまっても、山や川は変わりない。城（長安のまち）には春が訪れて、草や木が深々と生い茂っている。時代に心を痛めては、花を見ても涙がこぼれ、家族との別れをうらんでは、鳥の鳴き声にもおどろく。戦いののろしは、三か月たってもなお続き、家族からの便りは 万金にも値するほど貴重である。頭は白くなり 髪をかきわけると短く、かんむりをとめるかんざしもさせなくなりそうだ。

読んだ回数 ( ) で囲む	
11	1
12	2
13	3
14	4
15	5
16	6
17	7
18	8
19	9
20	10

先生の評価 ( )	私の評価 ( )	よい姿勢	漢文の暗唱	意味が言える
( )	( )	すらすら読む		

( ) ( ) ( )